



東国分中だより

令和7年9月12日

NO.9

学校 HP

学校教育目標 「夢や希望を抱き、生きる力を持った生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた生徒～
<https://ichikawa-school.ed.jp/ekokubun-chu/>

東国分爽風学園
市川市立東国分中学校
校長 植木 昭貴



東国分中の始まり

本校は、開校して今年度で46年目を迎えます。今回は資料を基に開校当時の本校の様子について紹介します。

東国分中は昭和55年4月、本市12番目の中学校として第一中、第二中、第三中の学校区より分離され現在の場所に開校しました。



この頃は子どもの数が増加しており、市内では本校以外に新井小、大野小、南新浜小が同時期に開校しています。本校の開校当時3年生はおらず、2年生194名（5学級）、1年生264名（6学級）の生徒数計458名並びに職員数25名でのスタートでした。

制服は開校年度の途中に決まったようで、1期生となる当時の2年生は1年時に着ていた前の学校の制服をそのまま着用する生徒が多く、卒業アルバムには女子は第一中、第二中、第三中、東国分中の4種類の制服が見られます（男子はいずれの学校も同じ黒の詰襟学生服でした）。

専門委員会は現在とは少し異なり、学年委員会、保健委員会、生活委員会、体育委員会、新聞委員会、美化委員会、放送委員会、図書委員会、給食委員会がありました。

部活動は、陸上部、サッカー部、野球部、卓球部、女子バレー部、男女バスケット部、男女テニス部、吹奏楽部、フォークソング部がありましたが、中でもサッカー部は創部当時から大活躍で、3年目には県大会で優勝しています。



9月にはPTAが設置、翌年の3月には校歌が制定されました。歌詞は当時の職員が作ったそうです。

校舎は現在と同じですが、当時は東側の一部分（現在の多目的室がある部分）がなく、9年後の平成元年に増築されています。一番上の写真を見てみると、現在より校舎の色がくっきりしており、校門から校舎までが並木道になっていることがわかります。

中学時代はわずか3年間ですが、人生の中でも心も体も大きく成長する時期であり、後で振り返ると思い出深いと感じる人が多いといわれます。この頃を本校で過ごした1期生の皆さんには、今年で60歳になる年を迎えています。文化や価値観、学校生活のかたちは時代の経過とともに変化していきますが、学校施設や長年にわたって生徒たちが育んできた伝統や習慣などは、世代を超えた「東国分中共通の思い出」として多くの卒業生の心に残るものであると思います。もし皆さんの身近に昔の東国分中について知っている人がいたら当時の様子を聞いてみてはいかがでしょうか。そして、現在の生徒の皆さんにも歴代の生徒たちに負けない、素晴らしい中学校生活を過ごしてほしいと願っています。